

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-072692

(43)Date of publication of application : 17.03.1995

(51)Int.Cl.

G03G 15/00

(21)Application number : 05-244754

(71)Applicant : RICOH CO LTD

(22)Date of filing : 30.09.1993

(72)Inventor : WATANABE SHIGERU  
MATSUI HIDEAKI  
TOMIDOKORO NOBUAKI  
YOSHIKI SHIGERU  
KAWAHARA SHINICHI  
SAKAI HIDENORI  
KOBU MAKOTO  
KAWASHIMA YASUHIRO  
YANO HIDETOSHI  
KAWADA YASUO  
ECHIGO KATSUHIRO  
KUZUMI FUMIO

(30)Priority

Priority number : 05153681

Priority date : 24.06.1993

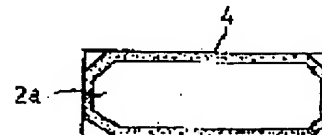
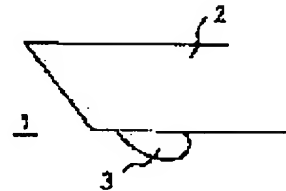
Priority country : JP

## (54) ELECTRONIC APPARATUS

## (57)Abstract:

PURPOSE: To make the decals, etc., stated with operation instructions, etc., stuck to respective parts, easily peelable by forming a recess in an electronic apparatus in such a manner as to exist under the outer peripheral parts of the decals consisting of different materials.

CONSTITUTION: The recess 3 is formed on the electronic apparatus so as to exist under the outer peripheral part of the decal 2. This recess 3 is so arranged that the outer peripheral edges of the decal 2 cross the recess 3. The recess 3 may be one or may be formed in plural pieces along the outer peripheral part of the decal 2. The decals 2 is removed from the apparatus body by inserting the fingertips into the recess 3 at the time of peeling the decal 2. Such decal 2a is coated with an adhesive only in the outer peripheral part 4 of its rear surface, by which the amt. of the adhesive is decreased. In addition, the four corners of the rear surface of the decal 2a are left without applying the adhesive thereon at the time of sorting operation, by which the easily peeling of the decal 2a with the fingers is made possible at the time of the sorting operation.



---

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 28.03.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3337278

[Date of registration] 09.08.2002

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-72692

(43) 公開日 平成7年(1995)3月17日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>  
G 0 3 G 15/00

識別記号  
5 5 0

庁内整理番号  
7428-2H

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平5-244754

(22) 出願日 平成5年(1993)9月30日

(31) 優先権主張番号 特願平5-153681

(32) 優先日 平5(1993)6月24日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000006747

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

(72) 発明者 渡邊 滋

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 松井 秀彰

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 富所 伸明

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式  
会社リコー内

(74) 代理人 弁理士 伊藤 武久 (外1名)

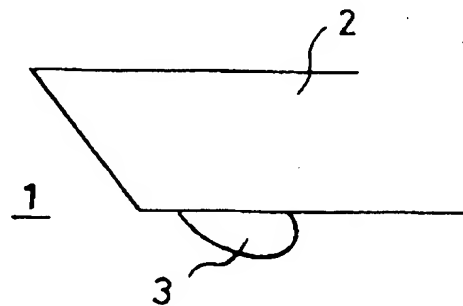
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 電子機器

(57) 【要約】

【目的】 プラスチック等を使用している電子機器製品およびこれに用いられる容器を再利用するため、その各部に貼り付けられている操作説明その他を記したデカル等を剥がし易く構成した電子機器および容器を提案する。

【構成】 電子機器1に窪み3を形成し、この窪み3が電子機器1に取り付けるべき異種材料のデカル2の外周部の下に位置するようになし、あるいは異種材料のデカルを接着剤を用いることなしに電子機器に取り付ける。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 電子機器に取り付けるべき使用説明その他を記した異種材料のデカルの外周部の下に位置するように、電子機器に窪みを形成したことを特徴とする電子機器。

【請求項 2】 電子機器に取り付けるべき使用説明その他を記した異種材料のデカルの外周部またはその 1 部の下に位置するように、電子機器に互いに平行な細い多数の溝を形成し、前記デカルが前記溝に対し強い圧力で押し付けることにより電子機器に取り付けられていることを特徴とする電子機器。

【請求項 3】 電子機器に取り付けるべき使用説明その他を記した異種材料のデカルの外周部またはその 1 部の下に位置するように、電子機器に細かい起毛またはリブを設け、これに対しデカルに対応する起毛またはリブが配置され、それによってデカルが電子機器に取り付けられていることを特徴とする電子機器。

【請求項 4】 電子機器に取り付けるべき使用説明その他を記した異種材料のデカルの外周部またはその 1 部の下に位置するように、電子機器に長めの凸部または凹部を設け、この凸部または凹部に係合する凹部または凸部をデカルに形成し、デカルの前記凹部または凸部を電子機器の凸部または凹部に押し込むことにより、デカルが電子機器に取り付けられていることを特徴とする電子機器。

【請求項 5】 電子機器に取り付けるべき使用説明その他を記した異種材料のデカルの外周部またはその 1 部の下に位置するように、電子機器に長めの凸部または凹部を設け、この凸部または凹部に係合する押圧部材と前記凸部または凹部との間に前記デカルの外周部を挟み、前記押圧部材を押圧することによりデカルが取り付けられていることを特徴とする電子機器。

【請求項 6】 電子機器に取り付けるべき使用説明その他を記した異種材料のデカルの隅角部の下に位置するように、電子機器に凸部を設け、この凸部をデカルの対応する穴に係止することにより、デカルが該電子機器に係止されていることを特徴とする電子機器。

【請求項 7】 電子機器に取り付けるべき使用説明その他を記した異種材料のデカルの隅角部に穴を設け、この穴の下に位置するように電子機器に凹部を設け、係止部材をデカルの前記穴を通して電子機器の凹部に係止させることにより、デカルが該電子機器に係止されていることを特徴とする電子機器。

【請求項 8】 電子機器に用いられかつ使用説明その他を記した異種材料のデカルを取付ける容器において、デカルを取付ける容器部分を透明となし、この透明な容器部分の内側に設けたケースに、前記デカルが取外し可能にかつデカルの表示内容が前記透明な容器部分より見えるように挿着可能であることを特徴とする電子機器。

【請求項 9】 電子機器に用いられかつ使用説明その他

を記した異種材料のデカルを取付ける容器において、デカルを取付ける容器部分を透明となし、この透明な容器部分の内側に表示内容を印刷した吸着シートを貼付することを特徴とする電子機器。

【請求項 10】 電子機器に用いられかつ使用説明その他を記した異種材料のデカルを取付ける容器において、デカルを取付ける容器部分を透明となし、この透明な容器部分の内側に、表示内容を印刷した紙を間に挟んで吸着シートを貼付することを特徴とする電子機器。

【請求項 11】 電子機器に用いられかつ使用説明その他を記した異種材料のデカルを取付ける容器において、デカルを取付ける容器部分を透明となし、この透明な容器部分の内側に、表示内容を印刷した可逆性感熱記録フィルムよりなる吸着シートを貼付することを特徴とする電子機器。

【請求項 12】 前記感熱記録フィルムの透明部分より容器内部に収納した材料の色が見えることを特徴とする、請求項 11 に記載の電子機器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、電子複写機、プリンタ、ファクシミリおよびそれらの複合機等の電子写真方式を利用した電子機器に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、接合接着は樹脂同士あるいは塗装面、メッキ面あるいは金属面、ガラス面等における異種材料との間にも行われる。その場合、数々の接着が可能であるが、いずれの接着も可能というわけではなく、使用する材料の種類、被着材の組合せにより適、不適があり、より強固な接合方法が追及されてきた。特に接着の対象として考えられるプラスチックは、同質でもその表面が常に同じ状態ではなく、剥離材の使用または可塑剤、顔料、安定剤、低分子量成分等の浮きだしによる表面汚染が表面張力の低下を招き、接着を困難にするので、その極性、熱溶解性、結晶性から種々の接合方法がある。

【0003】電子機器におけるガラス部分やプラスチック部分に貼り付けられている使用説明その他を記した表示部材、すなわちデカルは、紙または非相溶性樹脂を素材とし、表面部分をコーティングしてできるだけ薄くかつ剥がれにくいことが要求され、これに応じて接着剤を使用して厳重に固定されてきた。

【0004】さらに、前記電子機器では、例えば現像装置にトナーを補給するためのトナーボトル、または感光体上から転写紙にトナーを転写するとき感光体上に残ったトナーを回収するクリーニング容器が用いられる。これらの容器は、使用する機械により形状、収納するトナーの種類等が異なる。このため、容器には、使用する機種名や収納トナーの種類等を記載したデカルが貼付されている。前記のトナーボトルおよびクリーニング容器

は樹脂製であるが、これに貼付すべきデカルは紙等の異種材料である。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】一方において、環境問題から、ガラス素材やプラスチック製カバー、その他の部品、ユニット等の再利用が近年になって望まれているが、異種材料であって分離しにくいデカル部品や接着剤その他が再利用の妨げとなっている。特にプラスチック材料は、社会において使用されてからの歴史も浅く、リサイクルシステムも十分に整備されておらず、産業廃棄物として大きな社会問題となりつつある。本発明の課題は、ガラスやプラスチックを使用している電子機器製品を再利用するため、その各部に貼り付られている操作説明その他を記した異種材料のデカル等を剥がし易く構成した電子機器を提案することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】前記の課題は、本発明により、電子機器に取り付けるべき使用説明その他を記した異種材料のデカルの外周部の下に位置するように、電子機器に窪みを形成することにより解決される。

【0007】また、本発明は、前記の課題を解決するために、前記デカルの外周部またはその1部の下に位置するように、電子機器に互いに平行な細い多数の溝を形成し、前記デカルが前記溝に対し強い圧力で押し付けることにより電子機器に取り付けられていることを提案する。

【0008】また、本発明は、前記の課題を解決するために、前記デカルの外周部またはその1部の下に位置するように、電子機器に細かい起毛またはリブを設け、これに対しデカルに対応する起毛またはリブが配置され、それによってデカルが電子機器に取り付けられることを提案する。

【0009】また、本発明は、前記の課題を解決するために、電子機器に取り付けるべき異種材料のデカルの外周部またはその1部の下に位置するように、電子機器に長めの凸部または凹部を設け、この凸部または凹部に係合する凹部または凸部をデカルに形成し、デカルの前記凹部または凸部を電子機器の凸部または凹部に押し込むことにより、デカルが電子機器に取り付けられていることを提案する。

【0010】また、本発明は、前記の課題を解決するために、電子機器に長めの凸部または凹部を設け、この凸部または凹部に係合する押圧部材と前記凸部または凹部との間に前記デカルの外周部を挟み、前記押圧部材を押圧することによりデカルが取り付けられていることを提案する。

【0011】また、本発明は、前記の課題を解決するために、デカルの隅角部の下に位置するように、電子機器に凸部を設け、この凸部をデカルの対応する穴に係止することにより、デカルが該電子機器に係止されているこ

とを提案する。

【0012】さらに、本発明は、前記の課題を解決するために、デカルの隅角部に穴を設け、この穴の下に位置するように電子機器に凹部を設け、係止部材をデカルの前記穴を通して電子機器の凹部に係止させることにより、デカルが該電子機器に係止されていることを提案する。

【0013】さらに、前記の課題は、本発明により、電子機器に用いられかつ使用説明その他を記した異種材料のデカルを取付ける容器において、デカルを取付ける容器部分を透明となし、この透明な容器部分の内側に設けたケースに、前記デカルを取外し可能にかつデカルの表示内容が前記透明な容器部分より見えるように挿着可能とすることにより解決される。

【0014】また、本発明は、前記の課題を解決するために、前記容器のデカルを取付ける容器部分を透明となし、この透明な容器部分の内側に表示内容を印刷した吸着シートを貼付することを提案する。

【0015】また、本発明は、前記の課題を解決するために、前記透明な容器部分の内側に、表示内容を印刷した紙を間に挟んで吸着シートを貼付することを提案する。

【0016】さらに、本発明は、前記の課題を解決するために、前記透明な容器部分の内側に、表示内容を印刷した可逆性感熱記録フィルムよりなる吸着シートを貼付することを提案する。

【0017】

【作用および効果】本発明では、操作説明その他を記した異種材料のデカル等を剥がし易いように、または接着剤を用いることなく電子機器に取り付けている。従って、分別作業時デカル等の除去が簡単であり、電子機器の再利用が容易となる。

【0018】また、前記デカルの外周部またはその1部の下に位置するように、電子機器に互いに平行な細い多数の溝を形成し、前記デカルが前記溝に対し強い圧力で押し付けることにより、あるいは電子機器に細かい起毛またはリブを設け、これに対しデカルに対応する起毛またはリブを配置することにより、あるいはデカルの外周部またはその1部の下に位置するように、電子機器に長めの凸部または凹部を設け、この凸部または凹部に係合する凹部または凸部をデカルに形成することにより、あるいは電子機器に長めの凸部または凹部を設け、この凸部または凹部に係合する押圧部材と前記凸部または凹部との間に前記デカルの外周部を挟み、前記押圧部材を押圧することにより、あるいはデカルの隅角部の下に位置するように、電子機器に凸部を設け、この凸部をデカルの対応する穴に係止することにより、あるいはデカルの隅角部の下に位置するように電子機器に凹部を設け、この凹部と係止する係止部材を用いることにより、デカルが電子機器に取り付けられている。これらの場合、いず

れもデカルは接着剤なしで取り付けられているので、その取り外しは簡単であり、電子機器の解体作業時の分別作業の時間が短縮され、作業の安全性も確保され、従って電子機器各部品の再利用が容易となりかつ促進されることとなる。

【0019】さらに、電子機器に用いられかつ機種名、使用材料の種類その他を記した異種材料のデカルを取付ける容器において、デカルを取付ける容器部分を透明となし、この透明な容器部分の内側に設けたケースに、前記デカルを取外し可能にかつデカルの表示内容が前記透明な容器部分より見えるように挿着可能とすること、あるいは前記透明な容器部分の内側に表示内容を印刷した吸着シートを貼付すること、あるいは表示内容を印刷した紙を間に挟んで吸着シートを貼付すること、あるいは表示内容を印刷した可逆性感熱記録フィルムよりなる吸着シートを貼付することにより、デカルの取付けおよび取外しが容易となり、前記容器の再利用に好都合となる。

【0020】

【実施例】以下に、本発明の実施例を図面により説明する。

【0021】図1において、電子機器の本体1に操作順序等の使用説明を記載したまたは図示したデカル2が貼り付けられている。デカル2は通常電子機器とは異種材料であり、電子機器を再利用するときは、これを剥がさなければならない。しかし、一般にデカルは使用中剥がれることのないように接着剤により強固に貼着されており、その取外しは容易でない。

【0022】このため、本発明では、デカル2の外周部の下に位置するように、電子機器に窪み3を形成する。この窪み3は、デカル2の外周縁が該窪みを横切るように配置される。窪み3は1つでもよく、あるいはデカル2の外周部に沿い複数個設けることができる。デカル2を剥がすときは、図2に示すように、窪み3に指先を入れることによりデカル2を機器本体から容易に取り外すことができる。

【0023】従来、デカルはその裏面の全面に接着剤を塗布して電子機器に貼り付けられていたが、図3に示す本発明の実施例においては、デカル2aはその裏面外周部4のみに接着剤を塗布することにより、接着剤の量を低減させているのみならず、分別作業時はデカル2aを剥がし易い特長が生じている。。さらに、デカル2aの裏面の四隅には接着剤を塗布せずにおくことにより、分別作業時デカル2aを指で簡単に剥がすことができる。

【0024】図4の実施例では、両面テープ5を用い、これをデカル2aの裏面外周部その他に部分的に貼り付けている。

【0025】図5および図6において、デカルを取り付けるべき電子機器11の位置には、互いに平行な細い溝12が多数形成されている。これらの溝12は、取り付

けるべきデカルの外周部の下に位置するように配置されている。該溝は、デカルの外周部の1部の下に位置するように設けることも可能である。

【0026】デカルを取り付けるときは、デカルの前記外周部をその下に位置する電子機器の溝12に対し強い圧力で押し付ける。このとき、デカルはその外周部が前記溝12内にめりこむことにより機器に固定される。この固定は、接着剤等による結合を行っていないので、電子機器廃棄のための分別作業時デカルの剥がしはきわめて容易である。

【0027】図7に示す実施例では、電子機器21のデカル22を取付けるべき位置にマジックテープ型の起毛、リブ23等を形成し、これに対しデカル22にはマジックテープ24を貼り付けることにより結合部を形成している。電子機器21に形成するリブは0.5mm以下の間隔とするのがよく、起毛、リブ等を機器本体に形成することは、周知技術により可能である。かく形成した両結合部を押し当てることにより、デカル22は接着剤なしで容易にかつ確実に機器21に取付けられ、そして簡単に剥がし取ることができる。

【0028】図8に示す実施例では、電子機器31の壁部に複数の長めの凹部33が形成され、これに対しデカル32には対応する長めの凸部34が設けられている。凹部33は弾性を有し、前記凸部34を凹部33に嵌入させることにより、デカル32は電子機器31に確実に取付けられ、そしてデカル32はこれを外方へ引っ張ることにより電子機器31より容易に取り外すことができる。この実施例の場合も、接着剤による結合を行っていないので、電子機器の解体、分別作業時の取外しが容易であり、その有効な再利用が容易となる。前記の場合、電子機器31に凸部を、そしてデカル32に対応する凹部を設けることも可能である。

【0029】図9に示す実施例では、電子機器41に溝43を設けている。この溝43は、機器に取付けるべきデカル42の外周部に対応する機器の位置に設けられている。溝43に嵌入すべき凸部44aを具備する押圧部材44を、デカル42の外周部を間に挟んで押圧することにより(図10)、その凸部44aがデカル42の外周部を間に挟んで前記溝43に嵌入する。それによって、デカル42が機器に固着される。

【0030】前記溝43は、デカル42の全外周部に沿い、または外周部のうち互いに平行な対向する2つの側辺に沿い設けることができる。あるいは、外周部に沿い部分的に適宜の間隔で配置することも可能である。この場合も、電子機器41に凸部を、そして押圧部材44に溝を設けることも可能である。

【0031】図11の実施例において、デカル52はその上側外周部に適数の穴53を備え、これに対し電子機器に前記穴53に対応する止め片54と受け片55とを設けている。デカル52は、その穴53が機器の止め片

54に係止しかつその底部が受け片55に載るようにして、機器に取り付けられる。前記の止め片54と受け片55とは、別体として作り機器に固定されるが、機器と同じ材料または機器材料と相溶性ある材料とするのがよい。

【0032】図12の実施例では、デカル52aは電子機器に設けた4個の係止片56により取り付けられている。係止片56が、図13に示すように、弾性材料より成るクリップ方式とすることにより、デカル52aの取り付け、取り外しは容易となる。係止片56の材料については、図11の実施例の場合と同じく、機器と同じ材料または機器材料と相溶性ある材料とするのがよい。

【0033】図14の実施例では、デカル62の四隅にクロスのカット63を形成し、これに対し電子機器に前記カット63に対応して突起64を設ける。デカル62のカット63のクロス部に前記突起64が突入することにより（図15）、デカル62は機器に取り付けられる。機器と突起64とは、同じ材料または相溶性ある材料とする。

【0034】図16の実施例では、デカル72の四隅に穴73を設け、電子機器71には前記穴73に対応して穴74を形成する。係止部材75の弾性止め片75aを、デカル72の穴73を通して機器71の穴74に差し込むことにより、止め片75aはその拡張習性により穴74内に係止し、デカル72を機器71に保持する。図17の実施例では、プリンタ81に取扱説明、操作手順等を簡明に記したパネル82を嵌め込んでいる。パネル82はプリンタ本体と同じ材料よりなり、記載される内容は印刷でも金型による文字表示でもよい。パネル82は、図18に示すように、プリンタに形成した窪み83a内に挿着され、窪み83aの縁に形成した凸部により自由な抜け出しを阻止されている。図19は、プリンタに固定され且つプリンタと同じ材料の枠体83bにパネル82を挿着する変形例を示す。

【0035】図20は、図17ないし図19のパネルの変形例を示すものであり、パネル82'に爪85を設けている。パネル82'を図21に示す窪み83'内に挿着したとき、前記爪85が窪み83'の対応する凹みに係止する。図21は、このようなパネル82'をプリンタ81の上側部81aと下側部81bとに挿着したところを示す。

【0036】パネル82、82'は、プリンタ81と同じ材料であるので分別性がよく、嵌め込み型なので取外し容易であり、分離性がよく、また両面を使用することが可能である。

【0037】図22において、電子機器91の扉94の裏にケース93が脱着可能に取り付けられている。このケース93内に、従来機器に直接貼り付けられていた説明用デカル、サービスシール、名刺等を収納する。ケース93は、接着剤を用いることなく、嵌め込み等により

扉94の裏に取り付ける。それによって、ケース93とデカル等は一緒に分別することができ、機器91と扉94の再利用は容易となる。

【0038】図23および図24において、蓋101を有する樹脂製のトナーボトル100の内側に、表示部材としての紙製デカル102が取り付けられている。デカル102は、トナーボトル100の透明な窓103の内側に設けたケース104に入れ、蓋101を閉めることにより所定位置に固定される。デカル102の表示内容は、透明な窓103を通して外部から容易に見ることができる。

【0039】トナーボトル100内のトナーを使い終わった後、デカル102は蓋101を開けることにより簡単に取り出すことが可能であり、従ってリサイクルに際し異種材料が混在することが防止される。

【0040】図25の実施例では、図23および図24に示す例におけるケース104を設けることなく、トナーボトル100の透明な窓103の内側に、表示内容を印刷した吸着シート105を貼付したものである。この場合も、吸着シート105に印刷した表示内容は、透明な窓103を通して外部から容易に見ることができ、かつ表示部材としてのデカルの取付けおよび取外しは甚だ簡単である。

【0041】吸着シート105としては、ポリエステルフィルムを表面基材としその片面にフォーム層を有する再剥離型フォームシート「パピラル」（商品名）を用いることができる。トナーを使い終わった後、吸着シートは簡単に剥がすことができるので、リサイクルに有効である。

【0042】図26の実施例においては、吸着シート自体に表示内容を印刷することなく、透明な窓103の内側と吸着シート105aとの間に表示内容を印刷した紙106を挟んだものである。この場合も、トナーを使い終わった後、吸着シートは簡単に剥がすことができるので、リサイクルに有効であり、吸着シートはそのまま再使用することができる。

【0043】図27の実施例においては、トナーボトル100の透明な窓103の内側に貼付する表示部材として、可逆性感熱記録フィルムよりなる吸着シート107を用いている。この吸着シート107は、可逆性感熱記録フィルム107aとその1側に接合した吸着機能を有する層107bとよりなるものである。

【0044】可逆性感熱記録フィルムは、高分子低分子複合タイプの可逆性材料であり、画像形成用のサーマルヘッドにより文字、画像を書き込むと、フィルムシートには白濁した部分と透明な部分とで表示することができる。可逆性感熱記録フィルムは、フィルムシートの光散乱状態が変化し、透明状態と白濁状態とが可逆的に変化するものである。さらに、再使用時には、該フィルムシートをヒートローラにより全面加熱すると、文字、画像

を消去することができ、これに新たな文字、画像を書き込むことができる。

【0045】前述のように、書換え替え可能なシート材料として可逆性感熱記録フィルムを用いる場合、透明と白濁の色分けでは見にくい場合がある。よって、図28の実施例においては、フィルムの裏側にトナーが来るようにすることにより、書き込まれた文字、画像の透明な部分108がトナーで着色されることになる。それによって、トナーボトル100に収納しているトナーの色が判るので、トナーの色を表記する必要がなく、また前記透明な部分に色が付くことにより表示内容を見易くしている。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は第1発明の実施例を示す斜視図である。

【図2】図2は図1の実施例の剥ぎ取り動作説明図である。

【図3】図3は本発明の課題を解決するデカルの背面図である。

【図4】図4は図3のデカルの変形例を示す斜視図である。

【図5】図5は第2発明を適用した電子機器の部分図である。

【図6】図6は図5の1部の拡大図である。

【図7】図7は第3発明の説明図である。

【図8】図8は第4発明の実施例を示す斜視図である。

【図9】図9は第5発明の実施例を示す斜視図である。

【図10】図10は図9の実施例の取付態様の説明図である。

【図11】図11は本発明の課題を解決する別の構成を示す分解斜視図である。

【図12】図12は図11の変形例を示す斜視図である。

【図13】図13は図12に示す変形例の係止片の詳細を示す斜視図である。

【図14】図14は第6発明の適用例を示す斜視図である。

【図15】図15は第6発明の取付態様の説明図である。

【図16】図16は第7発明の説明図である。

【図17】図17は本発明の課題を別の構成により解決する電子機器の斜視図である。

【図18】図18は図17の電子機器のパネル挿着部の詳細を示す斜視図である。

【図19】図19は前記パネル挿着部の変形例を示す斜視図である。

【図20】図20は前記パネルのさらに別の変形例を示す斜視図である。

【図21】図21は図20のパネルを挿着したプリンタの斜視図である。

【図22】図22は本発明の課題を別の構成により解決する電子機器の斜視図である。

【図23】図23は第8発明による容器の正面図である。

【図24】図24は図23の容器の要部を断面にて示す第8発明の説明図である。

【図25】図25は容器の要部を断面にて示す第9発明の説明図である。

【図26】図26は容器の要部を断面にて示す第10発明の説明図である。

【図27】図27は容器の要部を断面にて示す第11発明の説明図である。

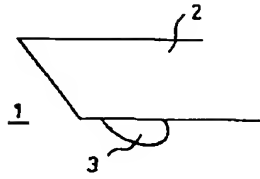
【図28】図28は図27に示す容器の正面図である。

【符号の説明】

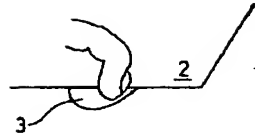
1, 11, 21, 31, 41, 61, 71	電子機器
2, 2a, 22, 32, 42, 52, 52a, 62, 72	デカル
3	窪み
12	溝
23	起毛またはリブ
33	凹部
34	凸部
43	溝
44	押圧部材
63	カット(穴)
64	突起(凸部)
73	穴
74	穴(凹部)
75	係止部材
82	パネル
100	容器
102	デカル
103	透明な窓
104	ケース
105, 105a, 107	吸着シート
106	紙
107a	可逆性感熱記録フィルム
108	可逆性感熱記録フィルムの画像の透明部分



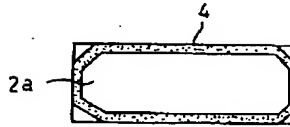
【図1】



【図2】



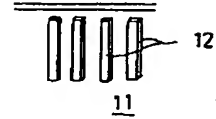
【図3】



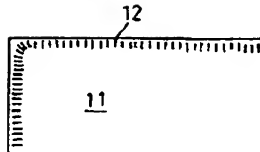
【図4】



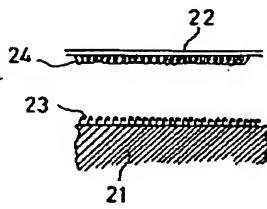
【図6】



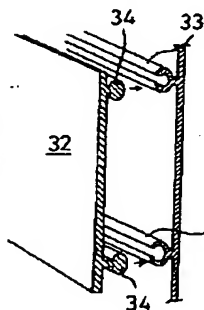
【図5】



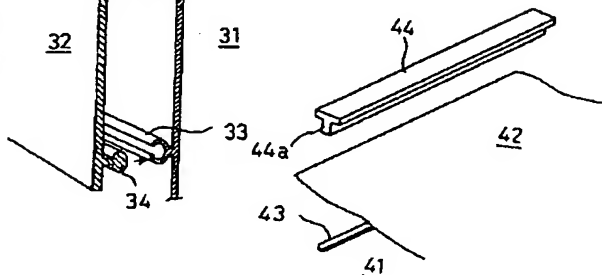
【図7】



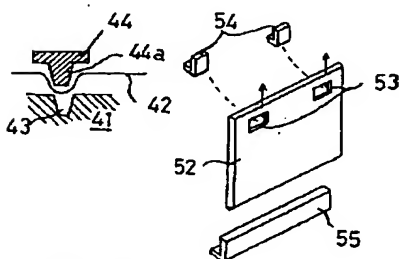
【図8】



【図9】

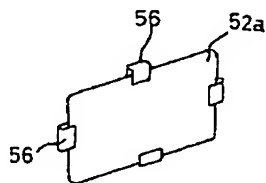


【図10】

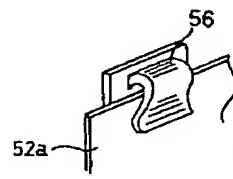


【図11】

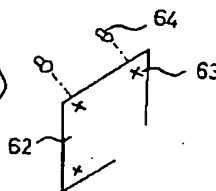
【図12】



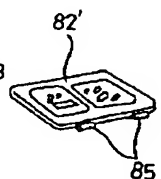
【図13】



【図14】



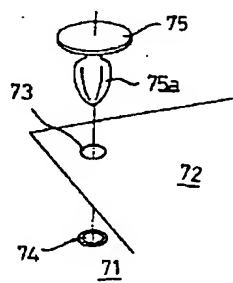
【図20】



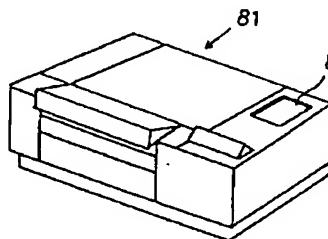
【図15】



【図16】



【図17】

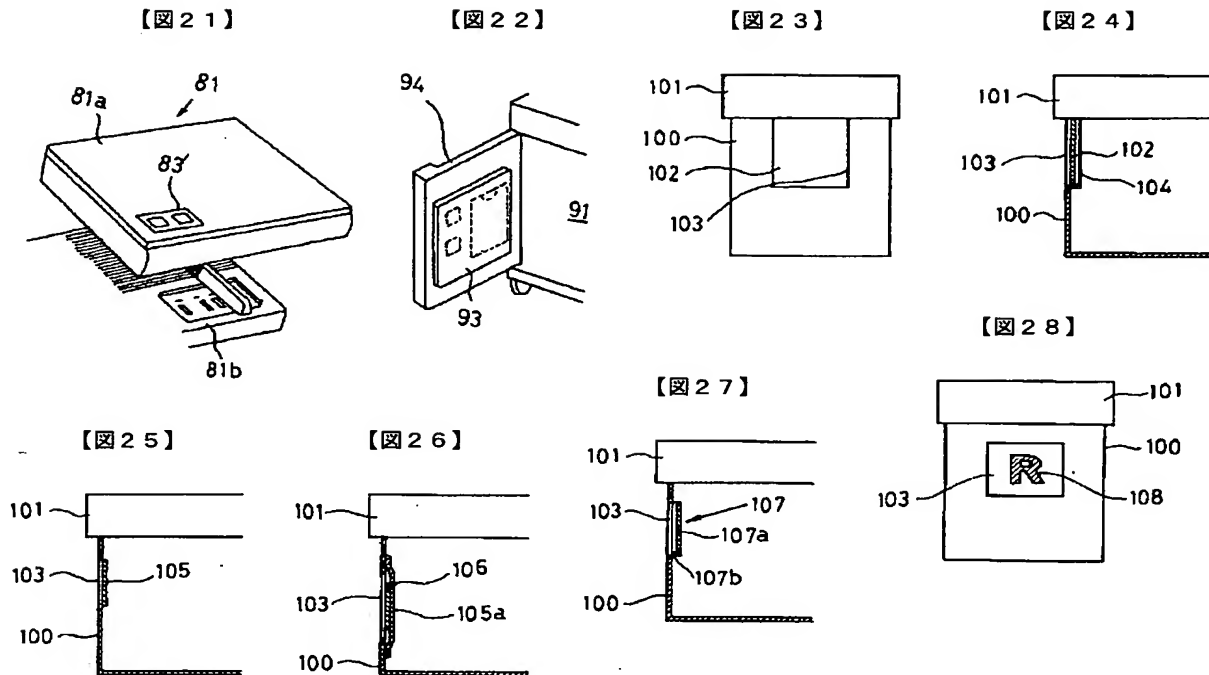


【図18】



【図19】





フロントページの続き

(72) 発明者 吉木 茂  
東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 川原 真一  
東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 酒井 英典  
東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 小夫 真  
東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 川嶋 保宏  
東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 矢野 英俊  
東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 河田 康雄  
東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 越後 勝博  
東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式  
会社リコー内

(72) 発明者 来住 文男  
東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式  
会社リコー内